

ティの重要性、それぞれの家族のライフステージに応じた支援の実現、仕事人が人を選ぶのではなく企業の方が障がい者に合った仕事を紹介するなどのご意見。小泉氏は子供の学校選びが大変だったが、同じ思いを持つ仲間がいて気持ちがやわらいだこと、地域の行事には積極的に参加して説明してきたこと、そしてこれからは専門家の聞き取り訪問、育成が大事。とそれぞれが経験に基づいた大変貴重で興味深いご意見でした。会場全体への挙手によるアンケートや意見交換もあり、2時間があっという間に過ぎていきました。参加された保護者の中には、石田氏が「親亡き後と云う言葉が有るが、親が活着ている間に」と言われ、嬉しい言葉だったとお話しされる方もいました。

最後に本人大会のトークの結果をそれぞれ発表し、全体会決議文、本人大会決議文を採択し、次期開催地である神戸市手をつなぐ育成会が来年の大会開催の抱負を述べられ、滞りなく第49回近畿知的障害者福祉大会が閉会しました。

各種大会に参加するたびに会員の高齢化を感じます。どこの育成会も会員数の減少・実動会員の世代交代停滞等問題を抱えているようです。原点に立ち戻り育成会の役割を明確にして今後の活動を活性化していきたいです。

#### 第49回近畿知的障害者福祉大会 本人大会について

##### 【本人大会(1)】

全体会と同様、大阪市立北区民センターの第1・第2会議室において行われました。

本人大会(1)では、午前中に2テーマに分かれてトーク(話し合い)を行いました。第1会議室のトーク①では「仕事・生活の悩みや楽しみと余暇について」、第2会議室のトーク②では「本人活動について考えてみよう」というそれぞれのテーマで話し合いがなされました。いずれの会場も参加者・見学者などで一杯になり、皆さん暑くて厳しい状況だったと思います。そんな中、近畿各府県から参加された方同士が、普段接点のない人たちがたくさんいる中で、自分自身やその想いをありのまま伝えるというのは、とても大変なことだったでしょう。それでもせっかくの機会に色々なことを吸収したいという皆さんの熱気が感じられ、とても活発なものとなりました。限られた時間で「まだ話さきれてない・・・」という面もあったと思いますが、有意義な時間になったの

ではないでしょうか。

午後からは、第1・第2会議室の間仕切りを取り一つの大きな会場に模様替えをし、「フェスタ・みんなで楽しもう」を実施しました。

フェスタでは、特技を披露するコーナーがあり、日頃、趣味として習ったりしている得意芸を、参加者の前で精一杯見せてくださいました。大道芸(ジャグリング)では、3つの箱を様々な姿勢になりながらバランス良く動かしたり、お手玉でも器用な技が飛び出しました。次いで腹話術の方が登場して、巧みな人形の扱ただけでなく、絶妙な会話のやりとりに場内にも笑いが渦巻きました。続いては滋賀県かもしか会のメンバーです。地元でのサッカーチームでの活動報告やパスやヘディングの技、息の合った掛け声を次々に出されていました。最後にはオカリナ演奏が登場しています。「HOME(木山裕策)」を演奏、そして「また君に恋してる(坂本冬美)」を熱唱そして再び演奏へと、会場を心地よい雰囲気にしてくれました。

フェスタの後半にはAir(エア)の皆様によるミュージカルアレンジによるパフォーマンスがありました。女性8名のパフォーマー(うち5名は小・中学生の元気な女の子)が入れかわり立ちかわり、ミッキーマウスやジブリメドレー(宮崎アニメ映画曲)など、舞台狭しと軽快にミュージックアンドダンスを展開しています。途中には「ぼくらはみんな生きている」を会場の皆さんと振り付けを考えて一緒に演じたりと、まさに会場が一体となって盛り上がりました。

こうして、盛況に終わった本人大会(1)ですが、それには準備段階より積極的に関わってこられた本人達による実行委員の力なくしては実現しなかったのではないかと思います。

忙しい合間を縫って打ち合わせに、中には遠方から長時間かけて参加された方もいました。なかなか意見がまとまらず、話が長時間に及ぶこともありました。それも実行委員の方たちが、どうすればより良い本人大会(1)になるかを真剣に考えていたが故のことでしょう。大会当日もそれぞれが自分の役割を果たすために懸命になっていました。そして一通りを終えたのち、最後に全体会に合流して委員一同ステージへと向かいました。緊張した面持ちながら、しっかりと本人大会報告ならびに本人大会決議文を読み上げ、承認の拍手を受けると、各自が晴れやかな様子で舞台袖に戻ってきました。大きな任務